

機関投資家としての対応

持続可能な社会実現への貢献 × 中長期的な運用収益向上の両立を目指す

住友生命はESG(環境・社会・ガバナンス)を含む中長期的な持続可能性(サステナビリティ)を考慮した資産運用(責任投資)を行うことにより、責任ある機関投資家として持続可能な社会の実現への貢献と、中長期的な運用収益向上の両立を目指しています。また、2021年度は、カーボンニュートラル社会の実現に向け、資産ポートフォリオ(対象:国債等を除く全資産)の2050年温室効果ガス排出量ネットゼロを目指すことを決定しました。今後、脱炭素社会および持続可能な社会の実現に向け、投融資先との建設的な対話や脱炭素化等に資する投融資を推進してまいります。

責任投資への取り組み

ESG投融資

財務情報に加え、ESG要素を含む非財務情報を考慮した投融資行動のこと



スチュワードシップ活動

日本版スチュワードシップ・コードに沿って実践する投資先企業との建設的な「目的を持った対話」および議決権行使にかかる活動のこと

責任投資に関する基本方針

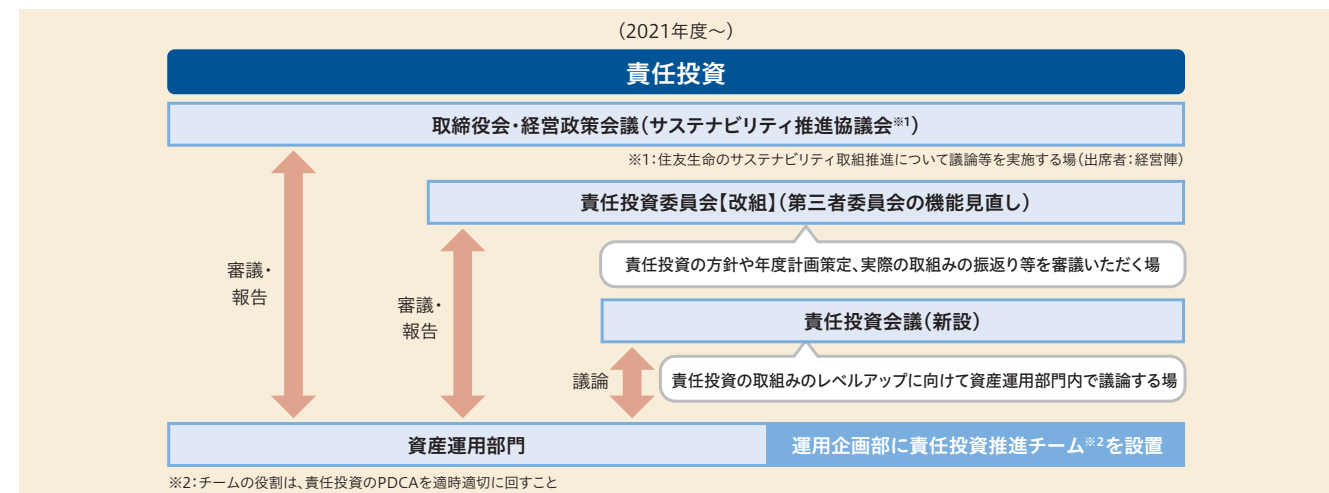
責任投資原則(PRI※1)および日本版スチュワードシップ・コード(SSC)を踏まえ、責任投資の基本方針を策定しています。

※1:Principles for Responsible Investmentの略。国際連合が2006年に提唱した投資家がとるべき投資原則。
投資先企業のESG要素を投資プロセスに組み込むこと等を求めています。

基本方針	
1	各資産の特性を踏まえたうえで、ESG要素を含む非財務情報を体系的に考慮し、投融資判断等を行う。
2-1	スチュワードシップ活動において、投資先企業の状況(サステナビリティを含む)を的確に把握し、対話および議決権行使を通じて、投資先企業と認識の共有を図るとともに、問題の改善を働きかけ、投資先企業の中長期的な企業価値向上や持続的成長を促していく。
2-2	対話先に対してESG課題に関する適切な情報開示を求めていく。
2-3	議決権行使の行使基準等を示す議決権行使ガイドラインを定め、議決権を行使する。
2-4	住友生命グループ行動規範、利益相反管理方針および利益相反管理規程の定めるところに従い、利益相反管理に関する法令等および規定を遵守のうえ、スチュワードシップ活動を行う。
3	気候変動対応などグローバルに重要なESG課題については、単独での対話に加え、国内外のイニシアティブ加盟等を通じ、他の機関投資家と解決に向けて協働していく。また、各種会合等に積極的に参加すること等を通じて、責任投資の普及活動に努める。
4	責任投資に係る取り組み状況(スチュワードシップ・コードが定める公表項目を含む)について、ホームページ等を通じて公表し、定期的に更新する。
5	適切なPDCAサイクルを回すために、「責任投資委員会」の設置をはじめ、必要な体制を構築するとともに、必要な能力・知識を有した人材育成に努める。

責任投資の推進体制

ESG投融資とスチュワードシップ活動を「責任投資」として一体運営していくため、体制面の見直しを行いました。



ESG投融資・スチュワードシップ活動

住友生命では、ESG投融資として①ESGインテグレーション、②テーマ投資、③ネガティブ・スクリーニングに取り組んでいます。また、投資先企業との建設的な対話を通して、中長期的に企業価値向上に資するスチュワードシップ活動を継続して行っています。

1 ESGインテグレーション

投融資の意思決定プロセスに、定量的な財務情報に加え、ESGの観点から考慮する手法です。ESG課題への対応を含む非財務情報は、中長期的に見て投融資先の企業価値に影響を及ぼすため、住友生命は、株式およびクレジット資産(社債・融資)にて業種別マテリアリティ(重要なESG課題)を設定の上、評価する取組みを行っております。なお、住友生命は2021年度中に、全資産を対象にESGインテグレーションを開始する予定です。

2 テーマ投資

ESG課題の解決を目的とした債券等への投融資について、運用収益獲得の観点に加え、SDGs達成への貢献も考慮のうえ、検討・実行しております。なお、2020年度から開始した中期経営計画期間(3か年)において、テーマ投資実行金額に目標値を設定のうえ、取り組んでおります。

詳細は次ページ参照

3 ネガティブ・スクリーニング

特定の業種や資金使途等を投資対象外とする手法です。住友生命は特定の兵器(生物・化学兵器、対人地雷、クラスター弾、特定通常兵器)製造企業への投融資、および石炭火力発電事業を資金使途とする投融資を禁止しています。

スチュワードシップ活動

気候変動などグローバルなESG重要課題については単独での対話活動に加え、協働エンゲージメント活動に参画することで、他の機関投資家と協働し、課題解決に向け取り組んでまいります。

Signatory of:



責任投資を通じて重点的に取り組む社会課題

住友生命は、SDGsが掲げる17のゴール全てが重要であり、責任投資を通じて取り組むべき課題と認識のうえ、取り組んでいますが、住友生命の機関投資家としての特性も踏まえ、特に以下の社会課題に重点的に取り組みます。

【重点取組課題(2021年度)】		(関連SDGs)
気候変動への対応	・世界共通で喫緊の課題であり、投資先の資産価値の毀損等に繋がりをうる重要な課題。責任投資を通じて脱炭素社会への移行を促していきます。	7 気候変動に具体的な対策を 13 気候変動に具体的な対策を
健康福祉・高齢化	・生命保険会社として、新型コロナ対策を始めとする健康福祉あるいは高齢化という課題に取り組んでいます。	3 持続可能な開発目標を達成させる
経済成長(多様性含む)	・国内の大手機関投資家として、投資先企業との対話等を通じて中長期の企業価値向上を促し、地方を含む日本経済全体の成長に貢献していきます。また、女性活躍を含む多様性についても重要な課題として取り組んでいます。	5 女性活躍を促進する 8 働きがい、経済成長を
社会インフラの構築	・中長期の資産運用を行う機関投資家として、社会インフラの構築に対し、中長期の資金提供を行っていきます。	9 産業と雇用創出を促進する 11 住み続けられるまちづくりを

特集：機関投資家としての対応

住友生命では、ESG課題の解決を目的とした債券等への投融資について、運用収益獲得の観点に加え、SDGs達成への貢献も考慮のうえ、検討・実行しております。

なお、住友生命はESG投融資を2019年度より本格化し、2020年度から開始した中期経営計画期間（3か年）において、テーマ投資実行金額に目標値を設定のうえ、取り組んでおります。

テーマ投資実績（2019年度）

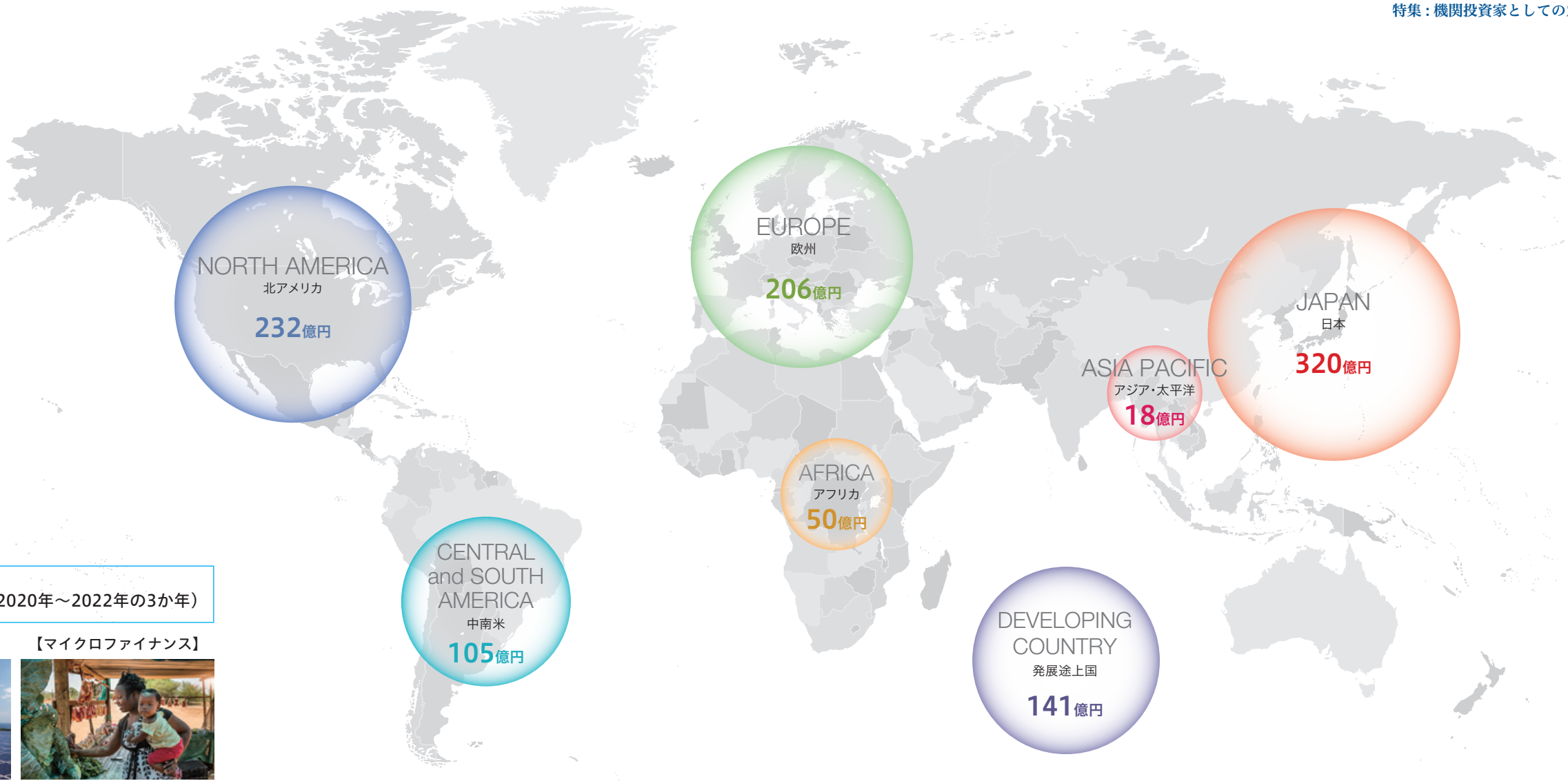
合計：約 **570** 億円

テーマ投資実績（2020年度）

合計：約 **1,460** 億円

※上記の実績は、それぞれの年度に投資の意思決定をした金額です。一方、右記の地域分散は2020年度に実際に投資した金額です。

テーマ投資金額目標		累計 5,000 億円（2020年～2022年の3か年）	
【SDGs債】	【再エネ案件】	【マイクロファイナンス】	
			



主な投融資案件（海外/2020年度）

案件例	投融資金額	重点テーマ	概要	SDGs
サステナビリティ・ディベロップメント・ボンド	69億円	コロナ対策	新型コロナウイルス感染症対策を含む保健医療分野への支援を目的に国際復興開発銀行 (IBRD) が発行するサステナビリティ・ディベロップメント・ボンドに投資しました。(2020年5月)	
グリーンボンド	100億円	気候変動	高速鉄道網や鉄道システムの管理・改善・エネルギー効率化等に資するプロジェクトに充当する目的でフランス国有鉄道が発行した「グリーンボンド」に投資しました。(2021年3月)	 
ソーシャルボンド	72億円	コロナ対策	新型コロナウイルスの拡大による景気低迷の影響を受ける開発途上国の民間企業の支援を目的に国際金融公社 (IFC) が発行するソーシャルボンドに投資しました。(2020年6月)	
新型コロナ対応関連スキーム	50億円	コロナ対策	アフリカ輸出入銀行が設定した新型コロナウイルス関連の融資枠に係るスキームに投資しました。(2020年12月)	  
再生可能エネルギー・ファンド	105億円	気候変動	再生可能エネルギー関連施設への投資に特化したインフラファンド「Global Renewable Power Fund III」に投資しました。(2020年11月)	  

主な投融資案件（国内/2020年度）

案件例	投融資金額	重点テーマ	概要	SDGs
国内SDGs債	159億円	スマートシティ	スマートシティの実現を目指す東京都が環境事業に充当する目的で発行したグリーンボンドに投融資しました。	  
		持続可能なまちづくり	都市再生機構が発行する都市構造の再構築や防災・減災への取組み等を目的としたソーシャルボンドに投融資しました。	
		教育	東京大学が発行する「ポストコロナ時代の新しいグローバル戦略を踏まえた研究の推進」、「安全、スマート、インクルーシブなキャンパスの実現」を目的としたソーシャルボンドに投融資しました。	 
		インフラ整備	鉄道建設・運輸施設整備支援機構が鉄道建設プロジェクトと船舶共有建造プロジェクトに充当する目的で発行したサステナビリティボンドに投資しました。(2020年5月ほか)	 
風力発電向けプロジェクトファイナンス	24億円	気候変動	青森県で実施される陸上風力発電事業向けプロジェクトファイナンスに投融資しました。住友生命としては、初の風力発電事業向けプロジェクトファイナンスとなります。	 
太陽光発電向けプロジェクトファイナンス	133億円	気候変動	国内で実施される太陽光発電事業向けプロジェクトファイナンス4件に投融資しました。	 